

第2学年 音楽科学習指導案

- 1 題材名 日本伝統音楽の魅力
教材名 平調「越天楽」管絃

2 題材について

《学習指導要領とのかかわり》

- B 鑑賞(1)ア 音楽を形づくっている要素や構造と曲想の関わりを理解して聴き、
根拠を持って批評するなどして、音楽のよさや美しさを味わうこと。

[共通事項] ア 音色 速度 旋律 テクスチャ

(1) 題材観

本題材は、音楽を形づくっている要素や構造と曲想のかかわりを理解して聴き、根拠を持って批評するなどして、音楽のよさや美しさを味わう能力を高めることをねらいとしている。また、小学校での学習経験を生かし、雅楽の楽器や歴史を知ることによって、雅楽について関心を深く持ち、我が国の伝統音楽を尊重する心を育てることができると考え、本題材を設定した。

雅楽は1300年以上の歴史を持ち、中国大陸、朝鮮半島から伝わったアジアを中心とする諸外国の音楽と日本の音楽が融合してできた芸術である。現在、この日本を代表する芸術は、ユネスコ無形文化遺産に指定され、世界の人々が関心をもち、海外でも紹介され演奏されている。日本国内では、雅楽は、初詣などで神社で聴くことがあるが、特別な場所で聴く音楽という印象が強く、なかなか身近に感じることがないのが現状である。この学習を機会に、日本の伝統音楽に興味を持って、積極的に聴いてみようとする態度を育てたい。

平調「越天楽」管絃は、小学校6年生で「越天楽今様」の学習から、中学生にとっても馴染みのある旋律の曲である。旋律を受け持つ楽器と他の楽器との関わり方、また独特の雰囲気醸し出す素となる音楽の要素について、生徒にとって親しみやすい楽曲「越天楽」管絃を通して、更に深く学習させたいと考える。

(2) 生徒の実態 (2年1組 男子13人 女子16人 計29人)

10月末に実施した能の鑑賞教室の感想から、生徒の日本の伝統音楽、芸能に対する興味・関心が予想していたものより比較的高いことがわかった。「能」の謡については、鑑賞や体験を通して、「力強い発声に驚いた」「テンポの速い部分では、楽器ときちんと合わせた謡い方をしていた」「静かでゆっくりした部分は緊迫感がある」など、能の迫力や緊張感を感じ取っていた。鼓、仕舞、謡の体験から、「自分たちから遠いものではないかもしれない」と感じている生徒が増えた。普段、2年1組の生徒は、穏やかで落ち着いている生徒が多く、鑑賞だけでなく合唱練習も課題に真剣に取り組むことができている。今まで1、2年生の鑑賞の経験を生かして、音楽の要素と関連付けて音楽の魅力を探る学習をさせていきたい。今

回の雅楽「越天楽」の鑑賞では、実際に使われる楽器を演奏することはできないが、旋律を唱歌で歌ったり、リズムを他の楽器で演奏することも含め、日本の音楽の魅力に迫りたい。

(3) 指導観

雅楽「越天楽」管弦は、平安時代に作曲された日本最古のオーケストラと言われている音楽である。また、この旋律は、「越天楽今様」として、都を離れた所でも歌詞を付けて歌われるほど親しまれた曲である。主旋律がはっきりと聴き取れること、早拍子で現在の4拍子に似ている拍子であること、冒頭の16小節の中で8種類の楽器すべて出てきて、それぞれの楽器の響きを味わうことができる曲であることなどから、2年生の生徒にとって、今まで学習経験を生かして、曲の要素と関連付けて鑑賞することができると思われる。オーケストラやオルガン音楽の鑑賞を2学年になって行っているが、雅楽の演奏で使用される管・弦（絃）・打楽器8種類の楽器による独特の雰囲気、各楽器の音色と演奏方法、楽譜など、音楽の要素と関わらせて音楽を聴くことを意識させたい。

また、中国や朝鮮半島など諸外国との交流、奈良の大仏の開眼の時にも音楽が欠かせなかったことなど歴史の学習と結び付けたり、徒然草や源氏物語など、平安時代の書物に度々登場する音楽であることなどを紹介し、中学生が関心を持って調べたり、聴いたりする活動に繋げたい。

3 題材の目標

(1) 雅楽の特徴を理解して、その魅力を自分の言葉で伝える。

4 題材の評価規準

音楽への関心・意欲・態度	鑑賞の能力
・雅楽の音楽を形づくっている要素や構造と曲想との関わり、特徴とその背景となる文化 ・歴史との関連、音楽の多様性に関心を持ち鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。	・音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、音楽を形づくっている要素や構造と曲想との関わりを理解して、解釈したり価値を考えたりし、根拠を持って批評するなどして、音楽のよさや美しさを味わって聴いている。

5 研究の視点について

【視点2】小中連携を関連させた題材構成

小・中学校で同じ教材が教科書に掲載されている。小学校では、6年生の歌唱教材として「越天楽今様」が取り上げられている。「小学校では、何をどこまで指導するか」「中学校ではさらに何を指導するか」を考え、系統的・発展的な指導計画が必要となる。10月には、鑑賞部会の提案として、「越天楽今様」の授業実践をしている。今回は小・中学校における雅楽「越天楽」の指導の流れを、以下のように考え、指導していく。

	教材曲	音楽を形作っている要素		⇒
小学校 6年	雅楽『越天楽』 『越天楽今様』	<ul style="list-style-type: none"> ・音色…伝統独特な音色。 かすれたような音もする。 ・リズム…各楽器がずれて演奏している。 ・速度…ゆったりとしたテンポ。 ・拍の流れ…何拍子かわからない。 ・その他…指揮者はいないが、呼吸を合わせている。 	児童が 聴き取 り感じ 取る	
中学校 2. 3年	平調『越天楽』 舞楽『陵王』 能『羽衣』から	<ul style="list-style-type: none"> ・音色…楽器の音色や独特の響き 歴史や背景との関連 ・リズム…リズムパターンがある。 ・テクスチャ…旋律と他の楽器の関わり ・その他…舞、歌を伴うものがある。 	生徒が 知覚・ 感受す る	⇒

音楽のよさや美しさを味わって聴く児童・生徒を目指す

小（低）・小（中）	小（高）	中1	中2、3
古謡『さくらさくら』 民謡『こきりこ』 など	箏・尺八 『春の海』 『越天楽今様』	<ul style="list-style-type: none"> ・民謡『ソーラン節』 ・箏曲『六段の調べ』 ・尺八『巢鶴鈴慕』 	<ul style="list-style-type: none"> ・長唄・歌舞伎 『勸進帳』 ・文楽『新版歌祭文』 ”野崎村の段”から ・雅楽『越天楽』

○『越天楽今様』で学習した旋律に、他の楽器が徐々に加わることによる演奏の効果やおもしろさ、独特のリズムなど、音楽を形づくっている要素を知覚しながら鑑賞し、目標に迫りたい。

6 題材の指導計画

次	時	○学習内容・主な学習活動	評価規準
第一 次		ねらい 雅楽の背景となる歴史・文化と関連させながら、曲全体の響きを味わう。	
	1	<ul style="list-style-type: none"> ○『越天楽』の時代背景、楽器、演奏形態を知る。 ・雅楽『越天楽』を聴き、感じたことや8種類の楽器の名前や音色の特徴など、映像資料で、楽器を確 	<ul style="list-style-type: none"> ・雅楽「越天楽」の音楽を形づくっている要素や構造と曲想とのかかわり、特徴とその背

	<p>認し、ワークシートにまとめる。</p> <p>○雅楽の音楽を形づくっている楽器の音色や旋律などの音楽の要素を知覚し、それらの働きが生み出す雰囲気を感じ取る。</p> <p>・主旋律を受け持つ箏箏に注目して、箏箏の旋律を唱歌で歌い、音色や旋律の特徴を感じ取る。(教科書P.39)</p> <p>・鞆鼓、楽太鼓、鉦鼓のリズムパターンにも注目し、手や身体を使って叩いてみる。</p>	<p>景となる文化・歴史との関連、音楽の多様性に関心を持ち、鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。(関心・意欲・態度)</p>
ねらい 雅楽の特徴を理解して、その魅力を自分の言葉で伝える。		
2	<p>○雅楽の独特の雰囲気を醸し出す音楽の要素を知覚する。</p> <p>・自分で興味を持った楽器について聴き取る。</p> <p>・箏箏や竜笛の旋律と、打物や弾物、和音を奏でる笙の役割などを知り、その組み合わせによる雰囲気を楽しむ。</p> <p>○雅楽の音楽の特徴を自分の言葉で友達に知らせる。</p> <p>・自分で気づいた雅楽の魅力を友達に紹介する。</p>	<p>・雅楽「越天楽」の音楽を形づくっている音色、リズム、速度、旋律やテクスチャなどの要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら、音楽を形づくっている要素や構造との関わりを理解する。(鑑賞の能力)</p>

7 本時の学習 (2 / 2)

(1) 目標

雅楽「越天楽」の特徴を理解して、その魅力を伝えよう。

(2) 展開

学習内容と学習活動	○教師のかかわり◆評価規準<評価方法>
<p>1 前時の学習内容を確認する。</p> <p>・箏箏の旋律の唱歌を歌う。</p> <p>・ワークシートで学習した内容を確認する。</p>	<p>○箏箏の唱歌を歌ったり、掲示物を利用したりして、前時の学習内容を思い出すよう促す。</p>
<p>2 本時の目標を確認する。</p>	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">雅楽「越天楽」の魅力を探り、自分の言葉で伝えよう。</div>	
<p>3 楽器の音色、速さ、拍、テクスチャを知覚し、それらの生み出す独特の雰囲気を感じ取って聴く。</p> <p>【予想される生徒の感想】</p> <p>◇演奏の技法、息の入れ方が独特</p> <p>◇継続する音、和音の笙があることで、明るい感じ、光が差すような感じ</p>	<p>○班で選んだ楽器を中心に、楽器の音色やその楽器と他の楽器との関わりについてワークシートに記入させる。</p> <p>○言葉で表現できない生徒は、前時のワークシートに書かれている楽器の特徴を参考にしたり、楽譜(絵で表したもの)に印を入</p>

◇細かな音、軽やかな鼓、鼓とか太鼓がないとどんな感じか。

◇伴奏、拍を刻む箏、音が派手でない

◇楽太鼓の叩く回数が少ない、低く響く

◇高い金属の音、2回鳴る、飾りのように鳴っている

◇拍が取りづらい感じ、ゆっくり

◇楽器がだんだん増えている、終わり方

◇楽器の配置

・班になり、気付いたことを発表する。

・意見の出た部分を唱歌に合わせて太鼓や鉦鼓などのリズムを打ったりして、確かめる。

【生徒の予想される意見】

◇演奏に加わるところ、入りにくいところ

◇速さやテンポがとりにくい

◇拍が普通の4拍子より長く伸びる音があるなど

4 聴き取ったこと、感じ取ったことをもとにして、雅楽『越天楽』の魅力を伝える。

・雅楽『越天楽』の魅力を班ごとに発表する。唱歌やリズム打ちをしながら発表する、または言葉で説明する。

・発表した内容をCDを聴いて確かめ、全員で共有する。

・今日の学習で学んだこと、わかったことをまとめる。

れたりして、気づいたことを記入させる。

○班は学級の生活班5人で行う。

○意見は、拡大した楽譜に書き込んだり、印を付けたりし、その内容を歌ったり、リズムをとって確かめさせる。

○確かめたことをもとに、自分たちで選んだ楽器を中心にして、この曲の特徴を音楽の要素と結びつけて発表できるように助言する。音楽の要素の何を中心に伝えたいのかを明確にさせる。

○例文を作っておき、必要な班は、それを参考にしよ。

◆音楽を形作っている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気、要素や構造と曲想との関わりを理解して、解釈したり価値を考えたりし、根拠を持って批評するなどして、音楽のよさや美しさを味わって聴いている。

(鑑賞の能力)

<発表・ワークシート>